In His Hands

主の御手のうちに

A Memorial to God's Faithfullness

マッジ・ベッコン［著］
Madge Beckon

伝道出版社

In His Hands

A Memorial to God's Faithfulness

by

MADGE BECKON

Published by

GOSPEL FOLIO PRESS

Grand Rapids MI

Evangelical Publishers

Tokyo, Japan

亡夫ギフォードにささぐ

「正しい者の思い出は祝福される」　箴言一〇・7（英語欽定訳）

目次

1 記念碑……11
2 神に受け入れられる供え物……17
3 運が悪かったのでしょうか……26
4 いじめっ子……33
5 白内障の手術……38
6 選ばれて、主に近づく……44
7 満ち足りる心……51
8 暗やみの中の慰め……58
9 主は私を嫌っておられるのでしょうか……64

10 忠実な証人たち……69
11 四世代……79
12 父の日の贈り物……86
13 神が与えてくださるぬくもり……92
14 忍耐の神……97
15 神の不思議な方法……105
16 伴侶（はんりょ）の選択……110
17 私も、失うときには、失うのだ……116
18 ともに歩む生活……122
19 相次ぐ苦労……131
20 子育て……141
21 神の確かな約束……148
22 約束、そしてさらなる約束……157
23 姉妹として奉仕する機会……168

24 救いの記念碑……177
25 涙……184
26 渇いていますか？ 来て飲みなさい……193
27 待ち望むこと……202
28 成熟とは何でしょう……209
29 失うことによって勝利を得る……216

わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。
彼らは決して滅びることがなく、また、
だれもわたしの手から彼らを奪い去るようなことはありません。

わたしに彼らをお与えになった父は、すべてにまさって偉大です。
だれもわたしの父の御手から彼らを奪い去ることはできません。

ヨハネ一〇・28、29

1　記念碑

私は昔の日々を思い出し、
あなたのなさったすべてのことに思いを巡らし、
あなたの御手のわざを静かに考えています。

主よ。私を敵から救い出してください。
私はあなたの中に、身を隠します。

詩篇一四三・5、9

十六歳になったその年を、私は忘れることができません。十代の若者がたいていそうであるように、私も激しい感情の起伏に振り回されていました。有頂天になったり、すごく落ち込んだりと、ほんの数分のうちに極端に気分が変わったものでした。

そのころ母は病床に伏していましたが、私たちには、お手伝いさんを雇う余裕はありませんでした。母には介護が必要でしたし、そのうえ、四月に生まれたばかりの弟の面倒も見なければなりません。彼はまだほんの赤ちゃんでしたから。洗濯、アイロンがけ、料理、掃除など、家族全員に気を配らなければなりませんでした。

そんなわけで、その年の夏、私は、母が元気になるまで休学し、家を切り盛りすることになりました。

さて、これからが話の本題になります。

牧師の家庭ならではの、さまざまな雑用をこなし、忙しく切り盛りしながらも、私はデートをする時間を捻出(ねんしゅつ)していました。ところが神様は、この「デート」をとおして、私の関心をご自身に向けさせてくださったのです。

その時期、私は、ある若い男性とお付き合いをしていました。彼は私より七歳年上でした。私にとって必ずしも霊的な助けになる人とは言えませんでしたし、私が召された働きにふさわしい器の

人でないのは確かでした。彼はクリスチャンだと自称していましたが、霊的というよりはむしろ、世故にたけた人でした。でも、私は恋をしていました。あるいは、そう思い込んでいただけなのかもしれませんが、あのころの私はそのことで頭がいっぱいでした。

十六歳の誕生日の前夜、私たちはダブルデートに出かけました。やがて時間も過ぎ、最初に、もうひとりの男性のお相手を家まで送ってあげたのですが、そのあと、彼が車のフロントシートに座るではありませんか。私はボーイフレンドに、「両親が心配するので、もう家に帰りたい」と訴えました。何か悪いことが起こるのではないかと、その瞬間から胸騒ぎを感じていたのです。そのうち、車が、私の家とは反対の方向に向かっているのに気がつきました。私は彼にそのことを抗議しましたが、このふたりの若者はただ笑っているだけでした。車は同じ方向に走り続け、家に向かう道からどんどん離れてしまいました。彼は、家に向かってほしいという私の頼みを無視したのです。やがて車が本道からそれて、狭い道に入って行きました。私の心臓は早鐘を打つようでした。半マイル（約八〇〇メートル）ごとに道はさらに狭くなり、とうとう古い農場で行き止まりになってしまいました。車は、一軒の廃屋の前でようやく止まりました。最初のうちは、どこを走っているかわかっていたのですが、今はもう全然わかりません。自分がどこにいるのか、見当もつきません。